

# 28PA-am454

miRNA 解析による抑肝散の抗腫瘍効果の検討

○和田 純菜<sup>1</sup>, 韓 哲舜<sup>2,3</sup>, 河田 美穂<sup>1</sup>, 濱田 祐輔<sup>1</sup>, 近藤 貴茂<sup>1</sup>, 五十嵐 勝秀<sup>4</sup>,  
葛巻 直子<sup>1</sup>, 成田 道子<sup>1</sup>, 小林 弘幸<sup>2,3</sup>, 成田 年<sup>1,4</sup> (<sup>1</sup>星薬大薬理, <sup>2</sup>順天堂大医, <sup>3</sup>順天堂大  
漢方医学先端臨床セ, <sup>4</sup>星薬大先端研(L-StaR))

[目的] 漢方薬の一つである抑肝散は抗不安作用、抗炎症作用および鎮痛効果など幅広い効果が報告されていることから、抗腫瘍効果を持つことが期待されている。しかしながら、抑肝散の腫瘍に対する影響については十分に検討されていないのが現状である。そこで本研究では、担がんモデルマウスを用い、抑肝散摂取による抗腫瘍効果について検討を行った。[方法] マウス由来肺がん細胞株である Lewis lung carcinoma (LLC) 細胞をマウス右腰背部に皮下移植し、移植から 3 週間にわたり 0.6% 抑肝散混餌を摂取させた。抑肝散の抗腫瘍効果を検討するため、継日的に腫瘍体積の測定を行った。さらに、抑肝散の腫瘍に対する影響を分子生物学的に検討するため、LLC 移植 22 日目後に血清を採取し、miRNA アレイ解析を行った。[結果] 3 週間の 0.6% 抑肝散混餌を摂取により、対照群（通常餌摂取群）と比較し、腫瘍体積の有意な抑制が確認された。血清 miRNA アレイ解析を行った結果、対照群で発現低下あるいは発現上昇していた miR-133a-3p/133b-3p, miR-1a-3p, miR-146a-5p の発現が抑肝散摂取により対照群と同程度に回復することが明らかとなった。[考察] 以上、本研究結果より、抑肝散摂取による抗腫瘍効果が確認された。また、この抗腫瘍効果には、一部血清 miRNA 発現の変動が関与する可能性が示唆された。